

先進会員感謝慰労の会

対象会員は 872 人に



9月19日「敬老の日」（祝日）から2日後の9月21日午後1時から、当会70歳以上の「先進会員感謝慰労の会」が弁護士会館クレオで催された。26回目の本年の会には、90名を超える先進会員が元気に出席された。

本年の先進会員は「産業再生機構や私的整理ガイドライン研究会で最後のご奉公中」との近況を寄せられた、9月に70歳になったばかりの高木新二郎会員（15期）ほか40人あまりも増えて、872人（2005年9月20日現在）となり、間もなく1000名を超える勢いである。

感謝慰労の会は、はじめに柳瀬康治会長から、永年にわたって人権の擁護、司法の民主化、弁護士自治の確立のために、さまざまな活動を通して貢献され、東弁の現在を築いてこられた多くの先進会員に対しての心からの感謝と長寿の祈念ならびに「日本司法支援セ



ンター」等最近の司法改革の実現課題についての会務報告があり、さらに副会長、常議員会正副議長らの自己紹介があった。

この後、先進会員と同じ世代である1932年生ま

れの広岡達朗氏（野球解説者・元プロ野球監督、写真左下）がスマートな姿で登壇し講話をされた。巨人軍への尽きせぬ思いと不甲斐ないプロ球界に対する歯に衣着せぬ指弾の弁をふるわれるのを、会場一杯の先進会員は身を乗り出すようにして聞き入った。先進会員の方々にとっては、広岡氏は西武ライオンズV3の監督というよりは、天然芝の「後楽園球場」（人工芝の「東京ドーム」ではありません）で、三塁の長嶋茂雄選手と三遊間を守った名遊撃手の印象が今もなお鮮やかだったかもしれない。ヤクルト、西武ライオンズを優勝に導いた知将広岡監督ならではの切れ味鋭い話をたっぷり満喫することができたようであった。

広岡氏のプロ球界に対する辛口の話に耳を傾けた後、慰労の小宴が、安藤武久常議員会議長の乾杯の発声で賑やかに始まり、久しぶりの邂逅にあちらこちらで大いに話が盛り上がり、あっと言う間に時間が経って、川合善明副会長の「来年また元気にお目にかかりましょう」との挨拶で開きとなった。

先進会員が懐かしい顔ぶれの仲間たちとの歓談に初秋の一刻を過ごした一日であった。

（総務委員会委員長 下河邊 和彦）

当日の栞から、先進会員の皆さまからの一言をご紹介します。

* 在会82年、今年107歳を迎えられた東畑文雄会員からは「歩行力が衰えておりますので、欠席させていただきます」とのご連絡をいただきました。ご長寿をお祈りいたします。

* 東弁会員に明治生まれが15人になりました。私も95歳を半年越して終点が近くなりました。司法改革で若い方達が良く勉強されるのに感心しています。（K.K）

* 地裁で、裁判後、若い女子修習生と雑談中、「3期修習生今なお健在。毎日出所執務中」と話したら、びっくり声で「え！本当ですか。私は59期生です」と。戦後60年、司法の歩みを思いつつ、若い修習生と愉快に話していました。（T.S）

* 裁判員制度の実施、司法支援センターの発足など制度の変革の中で、これからの弁護士像、在野のあるべき姿などについて思いをめぐらせています。しかし「先進会員」と言われるほどには枯れないのには困ったものです。（H.T）

* 去る3月、妻をがんで亡くしました。妻がいなくなって、その有難さが本当にわかりました。また妻は私の元気の素でもありました。今後は何とか一人でがんばって生きていこうと思っています。（I.K）

* 検察官33年、預金保険機構8年を経て、弁護士生活を始めましたが、新しい広がりを楽しみ、感謝している昨今です。（M.N）